愛知医科大学医学部

年次報告書

2023(令和5)年度

愛知医科大学 医学部

医学教育分野別評価 愛知医科大学医学部医学科 年次報告書

2023 年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元)年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.31
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35

はじめに

本学医学部医学科は、2019 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2020 年 6 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35 を踏まえ、2022 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日を対象としている。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準: 適合

特記すべき良い点（特色）

- 建学の精神を使命として定めている。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 建学の精神等を地域社会へより効果的に周知するため、大学ホームページのリニューアルを行った。(資料 1)
- 建学の精神、学是について新規採用教職員等へのさらなる周知を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料 1： ホームページリニューアル

質的向上のための水準: 適合･･･指摘事項等無し

特記すべき良い点(特色)

・ なし

改善のための示唆

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ なし

改善状況を示す根拠資料

・ なし

1.2 大学の自律性および教育･研究の自由

基本的水準:適合･･･指摘事項等なし

特記すべき良い点(特色)

・ なし

改善のための助言

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 令和４年度改定版医学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応について、医学教育センターカリキュラム検討部門及び教務委員会において検討する。

改善状況を示す根拠資料

・ なし

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

・ 学生代表がカリキュラム検討部門に参加して教職員と自由に意見交換を行っている。

改善のための示唆

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き、学生代表が医学教育センターカリキュラム検討部門に委員として参加し、議論を行った。(資料 2, 3)
- 昨年度に引き続き、学生代表が教育プログラム評価委員会に委員として参加し、医学部 IR 室による各種調査結果の報告を受け、議論に参加した。(資料 4, 5)

改善状況を示す根拠資料

資料 2：2022 年度第 1 回カリキュラム検討部門会議議事録

資料 3：2022 年度第 2 回カリキュラム検討部門会議議事録

資料 4：2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 5：2022 年度第 2 回教育プログラム評価委員会議事録

1.3 学修成果

基本的水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- 2016 年度に策定した卒業時のコンピテンス、コンピテンシーを達成するためのマイルストーンを 2018 年度に策定している。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き、医学部 IR 室はコンピテンシー・マイルストーン到達度調査等、各種アンケート調査を実施した。(資料 6, 7)
- 教育プログラム評価委員会では、医学部 IR 室からの上記調査結果の報告を受け、その評価と今後の対応について議論した。(資料 5)
- 教職員へのコンピテンス・コンピテンシー周知度について、確認する方策を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 5：2022 年度第 2 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 6：2022 年度卒業予定者アンケート（コンピテンス、コンピテンシー調査）

資料 7：2022 年度在学生コンピテンシー、マイルストーン調査

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための示唆

- 卒後研修終了時の学修成果を明確にし、卒業時の学修成果と関連づけて教育を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 卒業生アンケート（研修医）を継続して実施した。(資料 8)
- 教育プログラム評価委員会において、上記調査結果を基に、医学部卒業時の学修成果と卒後研修時の学修成果の関連性について検討を行った。(資料 5)

改善状況を示す根拠資料

資料 5： 2022 年度第 2 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 8： 2022 年度卒業生アンケート（研修医）

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための助言

- 今後、使命と学修成果を見直す際には、教員だけでなく、学生、職員も参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- プログラム評価のため組織した教育プログラム評価委員会を、学生、研修医、学外有識者、地域社会代表の参加の下、開催した。同委員会でコンピテンス・コンピテンシー達成度アンケート調査等、各種調査結果について議論した。(資料 4, 9)

改善状況を示す根拠資料

資料 4： 2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 9： 2021 年度卒業予定者アンケート（コンピテンス、コンピテンシー調査）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための示唆

- 今後、使命と学修成果を見直す際には、他の医療職、患者など、より広い範囲の教育関係者の参加が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- プログラム評価のため組織した教育プログラム評価委員会を、学生、研修医、学外有識者、地域社会代表の参加の下、開催した。同委員会でコンピテンス・コンピテンシー達成度アンケート調査等、各種調査結果について議論した。(資料 4, 9)

改善状況を示す根拠資料

資料 4： 2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 9： 2021 年度卒業予定者アンケート（コンピテンス、コンピテンシー調査）

2. 教育プログラム

2.1 プログラムの構成

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- 学生の学修意欲を刺激する目的で，問題基盤型グループ学修など多様な教育・学修方法を推進していることは評価できる。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- 新型コロナウイルス感染症対策として，4 月から 9 月までは昨年度に引き続き半数の学生は登校し対面講義を受講し，残り半数の学生は real-time の zoom 講義を受講するハイブリッド講義を行ったが、10 月以降は学年ごとに順次全員登校による対面講義に復帰した。また Zoom による授業録画を継続し，これを復習に利用したいという学生に提供するとともに, Zoom を用いた遠隔授業や AIDLE-K での小テストを併せて継続した。(資料 10, 11)
- 新型コロナウイルス感染症対策等の理由により一時期中断されていた PBL を再開させることなどを検討する。
- 情報科学・データサイエンス・統計学・EBM や生命・医療倫理教育などについて、らせん型カリキュラムを意識した科目編成にすることを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 10：2022 年度前学期ハイブリッド講義実施通知文

資料 11：2022 年度後学期全員登校実施通知文

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- １学年次から 4 学年次にかけて，「早期体験実習」,「行動科学」,「プロフェッショナリズム」,「地域包括ケア実習」,「コミュニケーション実習」などを組み合わせ，生涯学習につながる教育を体系的に行っていることは評価できる。

改善のための示唆

- 生涯学習につながる学修態度の向上に資するために 2018 年度から導入された e ポート

フォリオを有効に活用することが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き FD を開催し、教員の e ポートフォリオ使用経験を積み重ねた。さらに積み重ねて，有効な教育活用に繋げる予定である。(資料 12)

改善状況を示す根拠資料

資料 12：2022 年度医学部第 1 回 FD 開催案内

2.2 科学的方法

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- １学年次の「初年次医科学セミナー」，３学年次の「基礎医学セミナー」などにより，科学的手法の原理，医学研究の手法が教育されている。
- 臨床実習の現場で ICT が活用され，EBM を実践していることは評価できる。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- 今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症対策のため，「基礎医学セミナー」は ICT を利用したハイブリッド形式で実施した。(資料 13)
- Up to Date の利用を行うように継続的に学生を指導した。引き続きこれらを通じて自ら発掘し学修に生かすよう促した。(資料 14)

改善状況を示す根拠資料

資料 13：2022 年度基礎医学セミナー実施案内

資料 14：2022 年度 Up to Date へのアクセス実績

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- １～３学年次の「選択講座」で，基礎科学，基礎医学の講座を中心に先端的な研究を学ぶ機会を設けていることは評価できる。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き、選択講座を開講した。(資料 15)

改善状況を示す根拠資料

資料 15：2022 年度選択講座一覧

2.3 基礎医学

基本的水準： 適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き、「統合講義（腫瘍学）（炎症学)」を開講した。(資料 16)
- 「薬理学ロールプレイ」を他大学と共同で継続実施した。(資料 17, 18)
- 基礎医学科目におけるロールプレイについて，学外講師による FD を行った。(資料 19)
- 臨床医学における基礎科学・基礎医学学修内容の意味付けが明らかになるように、基礎科学・基礎医学科目の講義枠の一部に臨床講座教員が参画する「ジョイントセッション（JS)」を継続した。(資料 16)

改善状況を示す根拠資料

資料 16：2022 年度教科案内

資料 17：薬理学ロールプレイ配布資料

資料 18：薬理学ロールプレイ論文

資料 19：2022 年度大学院医学研究科第 1 回 FD 開催通知

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための示唆

- 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを，基礎医学において６年一貫の全体のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- 昨年度に加え、「医療のための情報学」や「行動科学 1a」において、AI や研究倫理など将来必要となる学修内容を取り入れた。(資料 16)

改善状況を示す根拠資料

資料 16：2022 年度教科案内

2.4 行動科学と社会医学，医療倫理学と医療法学

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- 「行動科学」,「プロフェッショナリズム」，地域医療等と連携した「地域社会医学実習」などを体系的に構築していることは評価できる。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き、「行動科学 1b・1c」,「プロフェッショナリズム 1a」,「地域社会医学実習」,「医療と倫理」を開講した。(資料 16)

改善状況を示す根拠資料

資料 16：2022 年度教科案内

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを，行動科学，社会医学，医療倫理学，医療法学において６年一貫の全体のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- １学年次では引き続き「生命倫理」を開講すると共に、臨床実習期間中の「クリニカル・クラークシップ振り返り」において，臨床実習で経験した倫理的諸問題について教員学生間で討議した。(資料 16)
- 情報科学・データサイエンス・統計学・EBM や生命・医療倫理科目などについて、らせん型カリキュラムを意識した科目編成にすることを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 16：2022 年度教科案内

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ４学年次から５学年次にかけての 40 週の「クリニカル・クラークシップ A」と５学年次から６学年次にかけての 28 週の「クリニカル・クラークシップ２」と段階的に患者診療への参加度をあげるプログラムを実践している。

改善のための助言

- 全学生に重要な診療科で十分な臨床実習時間を確保すべきである。
- 全学生が臨床実習の中で健康増進と予防医学の体験をすることができるよう工夫すべきである。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- メディカルセンターでのクリニカル・クラークシップを開始した。(資料 20，21)
- 学生からの要望を十分に取り入れ，クリニカル・クラークシップ B の科目選択方法の変更を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 20：2021-2022 年クリニカル・クラークシップの手引き（糖尿病内科）

資料 21：2022-2023 年クリニカル・クラークシップの手引き(糖尿病内科・メディカルセンター)

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- １学年次から６学年次にかけて，計画的に患者と接する教育プログラムが実施されている。

改善のための示唆

- 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを，臨床医学において６年一貫の全体のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- ２学年次の地域社会医学実習において，障害者施設での実習を実施した。(資料 22)
- ３学年次の老人保健施設はコロナのため，実施できなかった。
- １学年次は早期体験実習，６学年次は選択制で地域医療の実習を行っている。(資料 23)
- 多職種連携演習は感染症対策を行った上で，実施した。
- 臨床実習において診療科別 OSCE の導入を促進させるため、科別 OSCE に関する FD を行った。(資料 24)

改善状況を示す根拠資料

資料 22：2022 年度地域社会医学実習手引き

資料 23：2022 年度早期体験実習１ｃ手引き

資料 24：2022 年度医学部第６回 FD 開催通知

2.6 プログラムの構造，構成と教育期間

基本的水準：適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- 水平垂直統合講義として開講されている「統合講義（腫瘍学，炎症学)」は，基礎医学，臨床医学講座が協力して実施されている。

改善のための示唆

- 臨床医学において，現在は診療科別科目授業となっているが，今後水平的統合教育を推

進することが望まれる。
- 腫瘍学，炎症学の学修効果を評価したうえで，基礎・社会医学と臨床医学を統合した科目を広く導入することが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画
- シラバス作成 FD において，JS の増加を各科目責任者に促すとともに，医学教育センターワークショップにおいて，JS の現状について意見交換を行った。(資料 25)
- 臨床医学における基礎科学・基礎医学学修内容の意味付けが明らかになるように、基礎科学･基礎医学科目の講義枠の一部に臨床講座教員が参画する JS を継続した。(資料 16)
- また臨床医学科目においても、疾患病態の基礎科学・基礎医学的基盤を踏まえるため、基礎科学・基礎医学講座教員が参画する JS を継続した。(資料 16)
- 上記 JS の取り組みと通じて、臨床科目の実質的な水平垂直統合化を促進する。

改善状況を示す根拠資料
資料 16：2022 年度教科案内

資料 25：2022 年度医学教育者のためのワークショップ日程表

2.7 プログラム管理

基本的水準：適合･･･指摘事項無し
特記すべき良い点(特色)
- なし

改善のための助言
- なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画
- 学生代表や研修医、学外有識者、地域社会代表を委員とする教育プログラム評価委員会では医学部 IR 室による各種調査結果を検討した。そこでの議論を教務委員会にフィードバックした。(資料 26)
- 医学教育センターカリキュラム検討部門では、昨年度に引き続き学生代表の参加の下、カリキュラムの改善に向けて議論した。(資料 2, 3, 27, 28)

改善状況を示す根拠資料
資料 2： 2022 年度第 1 回カリキュラム検討部門会議議事録

資料 3： 2022 年度第 2 回カリキュラム検討部門会議議事録

資料 26：2022 年度第 7 回教務委員会議事録
資料 27：2022 年度カリキュラム検討部門員名簿
資料 28：2022 年度カリキュラム検討部門学生委員名簿

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための示唆

・ カリキュラム検討部門に他の医療職，患者代表など，広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

・ 今後，患者代表の参加を引き続き検討していく。

改善状況を示す根拠資料

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための助言

・ なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

・ 医学部 IR 室は、学内外の研修病院に勤務する初期研修医に対して「卒業生アンケート」を実施した。（資料 8）
・ 医学部 IR 室は、卒業生が初期研修医として勤務する学外研修病院の研修指導者に対して，本学卒業生の評価アンケートを行った。（資料 8）
・ 上記調査結果は、教育プログラム評価委員会に報告され、議論された。（資料 4）

改善状況を示す根拠資料

資料 4： 2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録
資料 8： 2022 年度卒業生アンケート（研修医）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 卒業生が将来働く環境からの情報を得て，教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

- 医学部 IR 室は、卒業生が初期研修医として勤務する学外研修病院の研修指導者に対して，本学卒業生の評価アンケートを行った。この調査結果は、教育プログラム評価委員会に報告され、議論された。（資料 4, 8）
- 教育プログラム評価委員会では、学生・卒業生・研修医・地域社会代表の参加の下，上記調査結果について議論した。

改善状況を示す根拠資料

資料 4： 2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 8： 2022 年度卒業生アンケート（研修医）

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- 知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。
- 進級判定や卒業判定に関して利益相反の規定を作るべきである。
- 評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。
- 評価結果に対して疑義申し立て制度を設けるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- コロナ禍における定期試験等の取り扱いについて，その都度，学生および教員に開示した。（資料 29，30）
- クリニカル・クラークシップの評価システムである F.CESS の運用を開始した。（資料 31）
- 疑義申し立て制度を整備するため、他大学の制度について情報収集を開始した。

改善状況を示す根拠資料

資料 29：コロナ禍の定期試験・再試験の取扱いについて（学生通知）

資料 30：コロナ禍の定期試験・再試験の取扱いについて（教員通知）

資料 31：F.CESS 紹介資料

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。
- 外部評価者の活用を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教育プログラム評価委員会にて，各定期試験の得点分布について議論した。（資料 4）

・ GPA 制度による評価制度の妥当性について検証できるよう、データを引き続き蓄積している。(資料 32)

改善状況を示す根拠資料

資料 4：2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 32：2022 年度第 9 回学生生活委員会議事録

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

・ なし

改善のための助言

・ 学修成果を学生が達成していることを確実に評価すべきである。

・ 形成的評価と総括的評価の適切な比重により、学生の学修と教育進度の判定の指針となる評価を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 2022 年度医学部第 4 回 FD（2023 年 1 月 11 日実施）において、自治医科大学の松山泰教授による講演「アウトカム基盤型教育時代の学習者評価」および、参加教員によるディスカッションを行った。(資料 33)

・ 教務委員会及び教授会での審議を踏まえ、追試験における評価点の上限を 79 点から 90 点に変更した。(資料 34, 35, 36)

・ 総合試験の合格基準において、確認テストや模擬試験を用いた形成的評価方法を導入した。(資料 37)

改善状況を示す根拠資料

資料 33：2022 年度医学部第 4 回 FD 開催案内

資料 34：2022 年度第 8 回教務委員会議事録

資料 35：2022 年度第 8 回医学部教授会議事録

資料 36：追試験による成績の評価について

資料 37：2023 年度総合試験合格基準

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

・　なし

改善のための示唆

・　基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム単位ごとに試験の回数
・　と方法を適切に定めることが望まれる。
・　学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・　シラバス作成開始に合わせ、評価方法等を含め「教科案内作成」に関する FD を実施し、各担当教員の評価法改善に向けての取り組みを続けている。(資料 38)
・　クリニカル・クラークシップの評価システムである F.CESS の運用を開始し、指導医からの評価・コメントを学生が適宜確認することが出来るようにした。(資料 31)

改善状況を示す根拠資料

資料 31：F.CESS 紹介資料

資料 38：2022 年度教科案内作成方法に関する FD 資料

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・　多様な入学者選抜方法で学生を受け入れていることは評価できる。

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・　2022 年度国際バカロレア選抜において、受験者 5 名から 1 名が入学した。
・　一般選抜（第 1 次試験、第 2 次試験）において、受験上の配慮が必要な受験生に対して別室及び個室受験を実施した。
・　一般選抜第 2 次試験において、新型コロナウイルス感染症の疑いのあった受験生 1 名に対して追試験を実施した。
・　2022 年度入試において、救護担当教員マニュアルと不測の事態が発生した場合の対応マニュアルを作成した。(資料 39)
・　不測の事態に備えて、入試会場に警備員を配置するなど人員配置を見直すことで、より安全な入学者選抜の実施を可能とした。

改善状況を示す根拠資料

資料 39：2022 年度第 4 回医学部入学試験委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　入学決定に対する疑義申し立て制度を明記することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・　昨年度に引き続き、入学試験成績開示希望者に対して成績開示を行った。(資料 40)
・　昨年度に引き続き、他大学の疑義申し立て制度について新たな情報収集を行った。
・　今後の入試方法の改善に向けて子細な検討を行うため、医学部入学試験委員会に医学部入学者選抜検討ワーキングを設置した。

・　医学部入学者選抜検討ワーキングにおいて、医学部 IR 室の調査結果に基づき、過去の入学者選抜試験の妥当性について分析・検証を行った。(資料 41)

改善状況を示す根拠資料

資料 40：2022 年度第２回医学部入学試験委員会議事録（成績開示）

資料 41：2022 年度第２回医学部入学者選抜検討ワーキング議事録

4.2 学生の受け入れ･･･指摘事項無し

基本的水準：適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

・　なし

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・　2019 年から 2022 年まで、学生１人あたり約 0.845 人の教員を配置している。(資料 42)

改善状況を示す根拠資料

資料 42：大学要覧 2022

質的向上のための水準：適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

・　なし

改善のための示唆

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・　医学部ＩＲ 室との連携を強化し、入学者選抜検討ワーキングを新たに設置した。(資料 43)

・　2022 年度入試においても引き続き国際バカロレア選抜を行った。(資料 44)

改善状況を示す根拠資料

資料 43：2022 年度第１回医学部入学者選抜検討ワーキング議事録

資料 44：2022 年度学生募集ガイド

4.3 学生のカウンセリングと支援・・・指摘事項無し

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 2022 年度から、指導教員制度から指導講座制度へと発展的に移行した。（資料 45, 46）
- 医学部 IR 室では新しい指導講座制度について学生アンケートを実施した。その結果は学生生活委員会に報告され、議論された。（資料 47, 48）
- 昨年度に引き続き、コロナ禍での経済的支援・減免制度（一人当たり 90 万円 x 5 名）を実施した。（資料 49, 50）
- １年次学生を対象にした学生相談室主催の交流会を行った。（資料 51）
- 学生相談室便りを定期的に全学生に配信した。（資料 52）
- 学生相談室の相談件数が近年増加傾向にあることを踏まえ、精神科・こころのケアセンター・心理学教員の協働体制の更なる強化を検討した。
- 学生食堂と学生ホールをラーニングコモンズとして改修し、自主学修スペースを設けた。（資料 53, 54, 55）
- 保健管理センターにおいて、引き続き学生の身体的不調に対する対応を行った。（資料 56）
- 昨年に引き続き、学生ホールに設置した学生意見箱や Web 上の電子目安箱に寄せられた学生の意見に対して対応した。（資料 57, 58）

改善状況を示す根拠資料

資料 45：指導教員についての一部改正について（新旧対照表）

資料 46：2021 年度第 12 回医学部教授会議事録

資料 47：指導講座制度の実施状況調査

資料 48：2022 年度第 4 回学生生活委員会議事録

資料 49：2022 年度新型コロナウイルス感染拡大に係る授業料減免事業について

資料 50：2022 年度新型コロナウイルス感染症拡大に伴う授業料減免の申請について

資料 51：2022 年度学生相談室主催グループ活動

資料 52：2022 年度学生相談室だより２・４・８月号
資料 53：レストラン「オレンジ」の休業のご案内
資料 54：レストラン「オレンジ」写真
資料 55：学生ホール改修
資料 56：2022 年度保健管理センター利用者状況
資料 57：学生意見箱記入用紙
資料 58：電子目安箱

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 医学教育センター学修支援部門において、成績不振学生に対する学修支援のチューター教員制度を導入した。（資料 59）
- 指導学生の学修的あるいは心理的サポートの必要性に関して、学修支援部門・学生相談室共同で、指導教員・指導講座宛のアンケート調査を実施した。（資料 60, 61, 62）
- 指導講座制度を活用して、希望学生に対し、正規教育カリキュラム以外の枠で講座での活動内容について知る機会を提供した。（資料 47）
- 指導講座制度を活用して、早期から興味のある専門分野の教員とキャリアに関して相談する機会を提供した。（資料 47）

改善状況を示す根拠資料

資料 47：指導講座制度の実施状況調査
資料 59：2022 年度後期チューター割り振り表
資料 60：進級支援学生面談報告フォーム
資料 61：授業欠席過多学生への対応について
資料 62：学修支援欠席学生への対応について

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　使命を見直す際には学生代表を参加させるべきである。
・　カリキュラム評価部門会議や学生生活委員会に学生代表を参加させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・　昨年度に引き続き、学生代表が委員として医学教育センターカリキュラム検討部門会議に参加し、検討課題について議論した。(資料 2)
・　昨年度に引き続き、学生代表が委員として教育プログラム評価委員会に参加し、医学部 IR 室による調査結果などの報告を受け、議論した。(資料 4)
・　昨年度に引き続き、学生生活委員会には、議題に応じてクラス委員、課外活動連絡協議会委員、医大祭実行委員会委員などの学生代表が参加し、議論した。委員会では、「クラブハウスリニューアル」「寅山グラウンド照明設備設置」「体育館空調設備設置」など学生からの要望を議論し、予算申請に繋げた。(資料 48)
・　昨年度に引き続き、学生代表が委員として新型コロナウイルス対策委員会に参加し、意見交換を行った。
・　医大祭実行委員 (学生代表)と学生生活委員 (教員)がコロナ禍で中断されていた医大祭(愛知医科大学大学祭)の再開について検討し、2022 年度医大祭は感染症対策に配慮した上で開催することとした。
・　委員会規程に、学生参加の規定を盛り込む検討を開始した。

改善状況を示す根拠資料

資料 2： 2022 年度第 1 回カリキュラム検討部門会議議事録
資料 4： 2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録
資料 48：2022 年度第 4 回学生生活委員会議事録

質的向上のための水準: 適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

・　なし

改善のための示唆

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・　大学、医学部後援会、看護学部父母会から支援を得て、コロナ禍で中断されていた医大祭を

再開した。

- コロナ感染状況を勘案しながら課外活動を一部再開した。

改善状況を示す根拠資料

- なし

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための助言

- 適切にカリキュラムを実施するために教員の募集と選抜の方針を定め、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 学生相談室の相談件数が近年増加傾向にあることを踏まえ、精神科・こころのケアセンター・心理学教員の協働体制の更なる強化を検討した。
- 令和４年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムを検討し、どの様な教員を募集し選抜するかを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- なし

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- 若年人口が多いなどの地域に固有な問題に対処するために、診療科の充実を行っている。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ３次救急だけではなく、プライマリケアから１次２次まで幅広く対応できる救急体制構築のための診療科の充実を検討する。こうした救急体制の変更に呼応した教員の募集・採用を推進する。(資料 63, 64)
- 私立大学研究ブランディング事業で長久手市民を対象とした研究を継続しており、市の特性を活かした予防医学、未病、若年からの対策等を含めた観点から、地域医療を重視した教育への展開を検討する。(資料 65)

改善状況を示す根拠資料

資料 63：現実を目指す救急体制とその方策について

資料 64：愛知医科大学病院救命救急科専修医教育指針

資料 65：2022 年度医学部における到達目標と方策の進捗状況について

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- 「選択講座」や「基礎医学セミナー」などにおいて教員の研究活動が学生の教育に活用されている。
- 多様なテーマで FD が開催され、研修、能力開発支援に活かされている。
- 教員の教育・研究活動に対し、大学が財政的支援を行う方針が策定され、履行されている。
- 大学保育所の充実や臨床系女性教員の特別短時間勤務を設けるなど、女性教員のキャリア支援や男女共同参画推進に取り組んでいることは評価できる。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 診療活動についての他大学の評価法を調査し、教員評価委員会などで検討した。（資料 66）
- 昨年度に引き続き、コロナ感染状況に配慮して、Web 視聴を併用した各種 FD を開催した。（資料 67）
- 教職員へのコンピテンス・コンピテンシー周知度について、確認する方策を検討する。
- 医師の働き方改革に合わせ、学内医師の勤務状況を調査した。（資料 68）

改善状況を示す根拠資料

資料 66：2022 年度第 3 回教員評価委員会議事録

資料 67：医学部 FD 開催一覧

資料 68：2022 年度医師の勤務実態調査の実施について（依頼）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- クリニカル・クラークシップは学生 3 名に対し教員 1 名以上が指導している。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- クリニカル・クラークシップは学生 3 名に対し教員 1 名以上が指導をしている体制を継続している。(資料 69)
- 2022 年度では学生 1 人あたり 0.845 人の教員を配置している。(資料 42)

年	医学部学生数	教職員数	内看護学部	差引教員数	学生一人当たり
2019	709	659	43	616	0.869
2020	718	658	43	615	0.857
2021	719	665	47	618	0.860
2022	724	657	45	612	0.845

改善状況を示す根拠資料

資料 42：大学要覧 2022

資料 69：2021-2022 年クリニカル・クラークシップの手引き

6. 教育資源

6.1 施設･設備

基本的水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- 図書室、マルチメディア教室、シミュレーション教育施設等を含め、カリキュラムが適切に実施され、保障されるだけの十分な施設・設備が整備されている。
- ４～５学年次（セミナー室)と６学年次（医心館)の専用自習スペースが整備され、活用されていることは高く評価できる。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- なし

改善状況を示す根拠資料

- なし

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- 創立 40 周年記念事業としてのキャンパス整備が 2018 年に完了しており、新病院建設事業も実現している。
- 2016 年度にキャンパスマスタープランを策定し、それに沿った整備計画が遂行されている。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 学生食堂と学生ホールをラーニングコモンズとして改修し、自主学修スペースを設けた。(資料 53, 54, 55)
- 学習環境の向上を図るため医心館１階多目的ホールの増改築および２階セミナー室４室の増設工事に着手した。(資料 70)
- 経年変化により傷んだ学習椅子など、医心館備え付け家具の刷新準備を進めた。

・ 2023 年度「医学部等教育・働き方改革支援事業」に選定された。共用試験 OSCE を実施するために不足しているシミュレーターの購入・更新を予定している。(資料 71)

改善状況を示す根拠資料

資料 53：レストラン「オレンジ」の休業のご案内

資料 54：レストラン「オレンジ」写真

資料 55：学生ホール改修

資料 70：７号館（医心館）セミナー室増設工事の実施について（通知）

資料 71：「医学部等教育・働き方改革支援事業」に関する選定結果について（通知）

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

・ 大学病院と、80 か所近い学外の実習協力病院が、学生の臨床経験の場として確保されている。

・ シミュレーションセンターが整備され、専任教員が配置されており、学生の技能訓練の場として随時機能している。

・ 医学教育センターの主導により「医学教育担当教員連絡会」が毎月開催され、臨床実習指導者の情報交換や FD の場として機能していることは評価できる。

改善のための助言

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 昨年度に引き続き、「医学教育担当教員連絡会」を定期的（月に 1 回）に開催した。(資料 72, 73)

・ 学生が臨床実習で経験した症候や医行為について、F.CESS を用いての集積を開始した。(資料 31)

・ 学外実習施設に対し、経験可能な疾患分類の情報提供を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 31：F. CESS 紹介資料

資料 72：2022 年度第 1 回医学教育担当教員連絡会開催通知

資料 73：2022 年度医学教育担当教員連絡会出欠表

質的向上のための水準：適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための示唆

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 地域医療を中心に学ぶ場として，愛知医科大学メディカルセンターをクリニカル・クラークシップに活用している。（資料 20, 21）

改善状況を示す根拠資料

資料 20：2021-2022 年クリニカル・クラークシップの手引き（糖尿病内科）

資料 21：2022-2023 年クリニカル・クラークシップの手引き（糖尿病内科・メディカルセンター）

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための助言

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 通信回線を 1Gbps から 10Gbps に増強し，通信環境を改善した。（資料 74）
・ 情報通信システムの更新時にマルチメディア教室内の学生用パソコンをバージョンアップした。（資料 74）
・ 授業システム（AIDLE-K）をバージョンアップし，学習環境の改善を行った。（資料 74）
・ 昨年度に引き続き、講義を録画し，学生の復習に利用可能なリソースとして提供している。（資料 75）
・ 図書館の電子リソースのアクセスに関する環境整備と行い、ネットワーク接続に置ける安全性の確保および利便性の向上を図った。（資料 76）
・ 新入生に対して大学での学習環境に適切なパソコンの推奨機能を示した。（資料 77）

改善状況を示す根拠資料

資料 74：2022 年度事業報告書（総合学術情報センター（ICT 支援部門，情報基盤部門））

資料 75：録画講義視聴方法

資料 76：電子リソースアクセス方法の変更について

資料 77：授業（e ラーニング・遠隔講義）で使用するノートパソコンについて

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- 学内 LAN やマルチメディア教室などが整備され、授業支援システム「AIDLE-K」や自習用 e ラーニングコンテンツが提供されている。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き、学生に対し UpToDate の利用促進を図っている。（資料 78）
- ChatGPT など生成系 AI の利用規範について、教務委員会などで検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 78：2021-2022 年クリニカル・クラークシップ A 気づき・出席票

6.4 医学研究と学識・・・指摘事項無し

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- コロナ禍では限定的であった研究室配属を見直し，「基礎医学セミナー」の再構築を検討している。
- 選択講義において、学生が各教員の研究活動に触れる機会を提供している。（資料 15）
- キャリアガイダンスと共に、学生が興味のある研究への参加機会を増すことを意図して、指導講座制度を導入した。（資料 79）

改善状況を示す根拠資料

資料 15：2022 年度選択講座一覧

資料 79：講座等による学生指導体制について

質的向上のための水準：適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 学生の学会発表を支援しつつ、学会賞受賞など顕著な成果を挙げた学生の表彰制度を継続している。（資料 80）

改善状況を示す根拠資料

資料 80：学生の表彰に係る規程

6.5 教育専門家

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- 医学教育センターの教員など、必要に応じて教育専門家にアクセスできる。
- カリキュラム開発、教育技法および評価方法の開発、FD などにおいて、教育専門家を利用するための組織や体制が整っている。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き、学外講師を招いて「医学教育者のためのワークショップ」（医学教育センター主催）を開催した。（資料 81）
- 昨年度に引き続き、学外講師を招いて医学教育に関する FD を開催した。（資料 67）
- 学外有識者、医学教育専門家などが委員として参加する教育プログラム評価委員会を開催した。（資料 4, 82）

改善状況を示す根拠資料

資料 4：2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 67：医学部 FD 開催一覧

資料 81：「医学教育者のためのワークショップ」の開催について

資料 82：2022 年度教育プログラム評価委員会名簿

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- 教育専門家の活用状況については、広報誌やホームページ等を通じて学内外に示している。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き、「医学教育センターニュース」を発行・配布し、合わせて大学ホームページに掲載し、医学教育の動向を学内外へ周知している。(資料 83)
- 昨年度に引き続き、医学教育センターの活動状況に関する年次報告書を作成し、学内外に提示した。(資料 84)

改善状況を示す根拠資料

資料 83：ホームページ：愛知医科大学医学教育センター（https://www.aichi-med-u.ac.jp/su10/su1003/index.html）

資料 84：年次報告 2021

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- 海外の教育機関との交流を促進するための協定締結が行われている。
- 海外の教育機関への学生派遣や海外の教育機関からの学生の受入が継続的に行われている。
- 多職種連携教育を通じて近隣の大学との協力関係が構築されている。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ハワイ医学教育プログラム(HMEP)に加入し，同プログラムの受講機会を提供した。(資料 85)
- 新型コロナウイルスの影響により中断していた Erasmus+K107Grant プログラムが再開された。(資料 86, 87)
- 新型コロナウイルスの影響によりこれまでの国際交流は中止を余儀なくされている。
- 学術国際交流協定大学への学生派遣を一部再開した。(資料 88)

改善状況を示す根拠資料

資料 85：ハワイ医学教育プログラム（HMEP）オンライン講義開催

資料 86：2022 年度第 11 回医学部教授会議事録（Erasmus+ K107 Grant）

資料 87：Erasmus+ K107 Grant 基本概要

資料 88：学術国際交流協定大学への学生留学体験記

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- 教職員や学生の海外研修時の経済的補助や、海外からの留学生に対する宿泊施設の無償提供など、適切な資源が提供されていることは評価できる。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ハワイ医学教育プログラム（Hawaii Medical Education Program)への参加を開始した。(資料 85)

改善状況を示す根拠資料

資料 85：ハワイ医学教育プログラム（HMEP）オンライン講義開催

7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- プログラム改善のために定期的かつ統轄的に教学に関するデータを収集・解析すべきである。
- プログラム評価を実質的に行い、その評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 2022 年度は 2 度の教育プログラム評価委員会を開催した。（資料 4, 5）
- 委員会での議論は、議事録を添えて教務委員会などに申し送った。例えば、コンピテンス・コンピテンシーの達成度の低い項目について議論し、当該科目が手薄であるのか、コンピテンス・コンピテンシーが必要以上に高度に設定されているのかについて教務委員会でも検討するよう申し送った。
- 従来から医学部ＩＲ室では各種アンケート調査を実施し、その結果を教育プログラム評価委員会等に報告してきた。今後は調査項目の体系化・リスト化など、医学部 IR 室と委員会の活動のシステム化を図る。（資料 6-9, 89-92）

改善状況を示す根拠資料

資料 4：2022 年度第１回教育プログラム評価委員会議事録

資料 5：2022 年度第２回教育プログラム評価委員会議事録

資料 6：2022 年度卒業予定者アンケート（コンピテンス、コンピテンシー調査）

資料 7：2022 年度在学生コンピテンシー、マイルストーン調査

資料 8：2022 年度卒業生アンケート（研修医）

資料 9：2021 年度卒業予定者アンケート（コンピテンス、コンピテンシー調査）

資料 89：全科目定期試験得点分布１～４学年

資料 90：本学カリキュラムに関するアンケート（教員）

資料 91：2022 年度学生生活調査（学修時間・行動調査）

資料 92：2022 年度授業評価アンケート

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための示唆

・ カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得できる学修成果および社会的責任について包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 卒業生が初期研修医として勤務する学外病院にアンケート調査を行った。しかし回収率が十分でないこと、質問内容が一部曖昧であったことから、今後アンケートの実施について改善を図る必要がある。（資料 8）
・ 愛知医科大学同窓会（愛橘会）へのアンケート方法について、同窓会長と検討を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料 8： 2022 年度卒業生アンケート（研修医）

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための助言

・ カリキュラム全体に関する学生からの意見を系統的に収集し、分析して、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 教育プログラム評価委員会では、学生代表参加の下，医学部 IR 室によるコンピテンス・コンピテンシー達成度調査、全科目定期試験得点分布、カリキュラムに関するアンケート、学生生活調査（学修時間・行動調査）、授業評価アンケートなど各種調査の結果を議論した。その結果は議事録を添えて教務委員会などにフィードバックした。（資料 4, 5）
・ 特にコンピテンス・コンピテンシー達成度の低い項目について、教務委員会でも検討する様に申し送った。（資料 4, 5）
・ クリニカル・クラークシップの評価システムである F.CESS の運用を開始し、学生が

臨床実習で経験した症候や医行為の集積を開始した。また指導医からの評価・コメントを学生が適宜確認することが出来るようにした。(資料 93, 94)

- 医学教育センターでは、クリニカル・クラークシップにおける各診療科について、学生アンケートを実施し、コメントを各診療科へフィードバックした。(資料 95)

改善状況を示す根拠資料

資料 4： 2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 5： 2022 年度第 2 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 93：F.CESS 説明資料（教員向け 2 版）

資料 94：F.CESS 説明資料（学生向け 4 版）

資料 95：クリニカル・クラークシップ診療科へのフィードバック

質的向上のための水準: 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための示唆

- 教員や学生からプログラム評価のためのフィードバックを解析し、その結果を利用してプログラム開発を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教育プログラム評価委員会での議論は、議事録を添えて教務委員会に申し送った。特にコンピテンス・コンピテンシーの達成度の低い項目について議論し、当該科目が手薄であるのか、コンピテンス・コンピテンシーが必要以上に高度に設定されているのかについて教務委員会でも検討するよう申し送った。(資料 4, 5)

改善状況を示す根拠資料

資料 4： 2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 5： 2022 年度第 2 回教育プログラム評価委員会議事録

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準: 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための助言

- 意図した学修成果について学生と卒業生の実績を客観的に分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 昨年度に引き続き、医学部 IR 室による卒業生（研修医）アンケート，卒業予定者アンケート（カリキュラムに関するアンケートに含まれる）を実施した。その結果は教育プログラム評価委員会に報告すると共に、大学ホームページにも公開した。(資料 8, 9, 96)
- 昨年度に引き続き、愛知医科大学同窓会（愛橘会)では在学生および卒業生の業績紹介や奨励賞授与などの顕彰活動を行い、その結果は愛橘会会報に掲載した。(資料 97)

改善状況を示す根拠資料

資料 8： 2022 年度卒業生アンケート（研修医）

資料 9： 2021 年度卒業予定者アンケート（コンピテンス、コンピテンシー調査）

資料 96：ホームページ：愛知医科大学公開情報

(https://www.aichi-med-u.ac.jp/su02/su0206/index.html)

資料 97：2022 年度愛橘会会報

質的向上のための水準: 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための示唆

- 学生の実績の分析を行い、責任がある委員会へフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 医学部 IR 室にて、入試データ収集と学生指導に繋げるための調査を引き続き行った。学生成績や進級状況などの教務データと入試区分との関連性について集計を行い、入学者選抜検討ワーキングで議論した。(資料 41, 43)

改善状況を示す根拠資料

資料 41：2022 年度第２回医学部入学者選抜検討ワーキング議事録

資料 43：2022 年度第１回医学部入学者選抜検討ワーキング議事録

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- 医学教育センターカリキュラム評価部門に学生代表を参加させ、学生の意見をプログラム評価に反映させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 2021 年度に設置した教育プログラム評価委員会には、本学卒業の初期研修医、学外有識者、地域関係者と共に、各学年の学生代表が委員として参加している。（資料 4, 5）

改善状況を示す根拠資料

資料 4：2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 5：2022 年度第 2 回教育プログラム評価委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 医学教育センターカリキュラム評価部門によるプログラム評価の結果を閲覧できるようにすることが望まれる。
- 卒業生が将来働く環境からの卒業生の実績に対するフィードバックを得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教育プログラム評価委員会議事録の閲覧方法を検討する。
- 卒業生が初期研修医として勤務する学外病院にアンケート調査を行った。（資料 8）
- 愛知医科大学同窓会（愛橘会）へのアンケート方法について、同窓会長と検討を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料 8：2022 年度卒業生アンケート（研修医）

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準: 適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 2022 年 6 月に愛知医科大学眼科クリニック MiRAI を開院した。(資料 98)
- 2022 年 11 月に愛知医科大学医学部父兄後援会を医学部後援会に名称変更した。(資料 99)
- 医学部事務部学生課から入試業務を独立させ入試課を設置した。(資料 100)

改善状況を示す根拠資料

資料 98：愛知医科大学眼科クリニック MiRAI 開院

資料 99：医学部後援会・医学部互助会への名称変更

資料 100：愛知医科大学組織図

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- 医学教育センターのカリキュラム検討部門とカリキュラム評価部門に父兄後援会・医学部同窓会の代表や他大学の医学教育専門家を加えている。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教育プログラム評価委員会を 2 回開催した。(資料 4, 5)

改善状況を示す根拠資料

資料 4： 2022 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事録

資料 5： 2022 年度第 2 回教育プログラム評価委員会議事録

8.2 教学における執行部･･･指摘事項無し

基本的水準: 適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための助言

- 教学における各種委員会の規程の見直しを検討する。

質的向上のための水準: 適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- 「医学部における到達目標と方策」を作成し教授会に諮っている。教授会承認後に大学運営審議会で審議されている。また、年度末には「医学部における到達目標と方策の進捗状況」を作成し、同じく教授会に諮り、承認後に大学運営審議会で審議されている。(資料 65, 101, 102, 103)
- 上記と同様に総合学術情報センター、研究創出支援センター、国際交流センター、災害医療研究センターなど大学附属施設においても「到達目標と方策」および「同進捗状況」を作成し、大学運営審議会で審議されている。その結果は教授会に報告されている。(資料 104, 105)

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- なし

改善状況を示す根拠資料

資料 65：2022 年度医学部における到達目標と方策の進捗状況について

資料 101：2022 年度医学部到達目標と方策について

資料 102：2022 年度第 3 回医学部教授会議事録

資料 103：2022 年度第 11 回医学部教授会議事録（到達目標と方策の進捗状況について）

資料 104：2022 年度大学附属施設における到達目標と進捗状況について

資料 105：2022 年度第 12 回医学部教授会議事録

8.3 教育予算と資源配分・・・指摘事項無し

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 医学部予算案は教務委員会、学生生活委員会、医学教育センター運営委員会など各種委員会、基礎科学・基礎医学・臨床医学の各部門、医学部附属施設の各々が作成した予算要求内容を集約し、医学部教授会の下に設置されている医学部予算委員会での仔細な検証を経て、医学部教授会において審議の上、決定している。その後学校法人の予算会議で審議し、中長期計画との整合性を図りつつ編成作業を行う。こうして作成された予算案は「学校法人愛知医科大学寄附行為」第 28 条の定めに従い、理事会及び評議員会での審議と承認を経て次年度予算として成立する。（資料 106, 107）

改善状況を示す根拠資料

資料 106：医学部予算委員会規程

資料 107：寄附行為

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 基礎医学セミナー、クリニカル・クラークシップ及び選択講座の受入学生数に応じて、実習費等の予算配分を行っている。（資料 108）

改善状況を示す根拠資料

資料 108：2022 年度学生実習費配分案

8.4 事務と運営･･･指摘事項無し

基本的水準: 適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 学生支援業務と入試業務の増加を踏まえ、これまで両者を兼ねていた学生課から新たに入試課を独立・設置し、事務職員配置の適正化を行った。(資料 100)
- 医師事務の業務を専門的に管理するため、病院の事務組織に診療支援課が新たに設置予定である。
- 教務業務の増加を踏まえ，教務課事務職員の増員を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 100：愛知医科大学組織図

質的向上のための水準: 適合･･･指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- なし

改善状況を示す根拠資料

- なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

・　なし

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・　がん医療に関する人材育成等を目的として、愛知県がんセンター（愛知県）と連携・協力の推進に関する基本協定を締結した。（資料 109）
・　包括連携協定を締結している長久手市の大学連携推進事業へ学生のクラブ活動である ACSIS が参画し、連携する他の大学の学生等への救急蘇生法の指導を行った。（資料 110）
・　ACSIS が尾張旭市地域防災イベントボランティアへ参加した。（資料 111）

改善状況を示す根拠資料

資料 109：ホームページ：お知らせ（愛知県がんセンター（愛知県）と連携・協力の推進に関する基本協定締結）
（https://www.aichi-med-u.ac.jp/su03/su03_2022/su03_2021_01/1217505_6117.html）
資料 110：長久手市大学連携事業
資料 111：ホームページ：ACSIS（アクシス）
（ACSIS（アクシス）｜愛知医科大学（aichi-med-u.ac.jp））

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・　なし

改善状況を示す根拠資料

・　なし

9. 継続的改良

基本的水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- 機関別認証評価と医学教育分野別評価を受け、組織と機能の改善や課題の修正に取り組んでいる。
- 私立大学等改革総合支援事業(タイプ1:教育の質的転換)に採択され、教育の特色化や機能強化に向け全学的に取り組んでいる。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 私立大学等改革総合支援事業において、2017年度から6年連続で、2022年度も選定された。(資料112)

改善状況を示す根拠資料

資料 112:ホームページ:お知らせ(令和4年度私立大学等改革総合支援事業選定)
(https://www.aichi-med-u.ac.jp/su03/su03_2023/su03_2023_01/1220807_6427.html)

質的向上のための水準: 評価を実施せず